

何かひとつ文章を書いてくれと、昨年暮れの総会兼忘年会の席で声をかけられた。気軽に承諾した。まあ、名前だけではあるが、このグループの執行役員のひとりである。その責務もあつたし、出されたエビスビールの効用もあつてのことだったに違いない。

メンバーの中には、エッセイの一本ぐらいチョチョイと、書く気になれば小一時間もあれば事足りるだろう、という人もいる。正論である。が、長年の文学の徒としては、正論必ずしも正解ならずという言葉も知っている。(誰の箴言かは不明だが)

正月も明ければ取りかかるつもりだった。こう見えても私は中々の慎重派である。自身の経験則として、チョチョイとエッセイ一本仕上げた記憶がない。どうかすると、二週間以上かかってしまった事すらある(どちらかというとこちらの方が多い)。無論毎日パソコンの二郎画面に向かってうんうん唸つてすごした、なんてことではないが。提出期限の二十四日までは余裕綽々で書けるだろうと高を括っていた。

ところがである。ここにウインドウズセブンの問題が^{しゅつたい}出来したのである。

メインで使っている店のパソコンはウインドウズセブンである。そのサポートが一月十四日に切れる。サポート切れでも使えるには使えるだろうが、セブンの画面では危険だ危険だと、パソコンを立ち上げる度に脅しのようにテロップが出る。もちろんサポート切れは以前から知っていた。が、ものぐさな私は迅速に事をなすということが出来ない。とにかく何事に対しても面倒が先に立つ。

実は十一月頃にはそろそろどうにかしなければと考えるはいたのである。それがずるずると気がつけば、年が改まっても、パソコンはセブンのまま。

仕方なく家に眠っていたNECのノートパソコンを引つ張り出してきた。五年前に買ったものである。実は自宅で使っているデスクトップはビスタで、その乗り換え用に買ったもの。結局どうしたわけか肝心の乗り換えに何度か失敗し、放置したままになっていた。ちなみにインターネットにはつなげてはならないが、家のパソコンは未だビスタのままである。

そのノートパソコンを店に運び込み、改めてセットアップ試みたのがサポート切れの四日前のこと。マイクロソフトのシリアルナンバーを打ち込み、どうにか使える状態に持ってきた。

ところがである。ホームページを閲覧することに支障はないのだが、メールが使えない。どうにか受信は出来るが、送信が機能しない。送信ボタンが、白く濁ってしまっていて反応してくれないのである。

これには困ってしまった。メール送信ができなければ仕事にも支障を来たすし、趣味の活動にも影響しかねない。第一、頼まれたエッセイを書き上げたところで送れない事にはたと気付いた。かなり前から、この会では原稿のやりとりをメールでやっているからである。

慌ててNECのホームページに飛び、サポート欄を出し、チャット機能を使ってトラブルの解決を図った。が、たどり着かない。メールのアイコンを開いて、設定ボタンを何度かクリックしても、非同期の文字がどんと居座ったままなのである。

もともと機械類は苦手であった。もう何十年前の話か忘れてしまったが、高校の同級生から東芝のノートパソコンと、エプソンのプリンターを購入した。皆がパソコンを使い始めていたということで、なぜかやる気になった。同級生の電気屋は、パソコンとプリンターの入った二つの段ボールを家の玄関に置いたまま、何の説明もせず、礼だけ言って帰っていった。多分このときは彼もあまりパソコンに精通していなかったに違いない。この最初のパソコンをどうにかインターネットに繋ぐ事が出来たのは一年後のことであった。そのことにくわえて、何度かビスタの乗換に失敗している嫌な記憶も残っている。エッセイの締め切り日も迫っている。

私は自分で解決することを早々に放棄し、出張サービスを使うことにした。ホームページ上から申し込むと、一時間もしないうちにNECから電話がかかってきた。若そうな女性の声だった。こちらの依頼を確認し、正式に申し込むと、二日後の五時半過ぎに訪問できるという。その時間帯は都合が悪いと答えると、翌日の昼過ぎでは、といわれた。随分と早い対応に驚いたが、エッセイのことを考えれば無論早いほうがいい。

訪問当日、予定時間びつたりに黒い背広姿の若い長身の男が私の店の前に立っていた。早速招き入れ、依頼内容を述べ、署名を二通してから、彼が依頼内容に沿った見積書を作成し、双方合意ということで作業がはじまった。

とにかく私はメールの設定が出来ないと訴えた。彼はタブレット片手に時折私のノートパソコンに何やら打ち込んでいたが、二十分もかからないうちに、設定は出来ていると言いだした。私にすれば狐につつまれた気分だった。パソコンをのぞき込むと、デスクトップ上にアウトLOOK 2013のアイコンが出来上がっていて、これからはこれを使ってくれとのこと。言われた通りそこをクリックすると、見慣れたメール受信画面が現れた。返信欄に紗もかかっていない。事実送受信出来ているとあって、手元のタブレットを差し出してきた。私のパソコンから送信されたとおぼしき試験メールがそのディスプレイ上に存在していた。

やれやれという思いと、いとも簡単に解決してしまった呆気なさに、納得しがたい思いも抱いた。NECの女性オペレーターとのやり取りでは、依頼内容以外のこととは行わないということだったが、彼が提示した作業内容で、パソコンのクリーンアップという項目があり、どうされますかと聞かれた。クリーンアップも何も、このノートは何度か電源を入れた程度で、ほぼ五年間放置していたパソコンである。必要ないと思ったのだが、瞬時に解決してもらったことでもあり、せっかく訪問してもらったのだから、やってくれということになった。

すると彼は私のパソコンと自分のタブレットを交互に操りながら、又二十分ほど無言で作業していた。そして、もしかするとこのパソコン、メールのやり取りの部分が壊れている可能性があると言いだした。私は、パソコンが壊れているのか、と思わず聞いた。放置していたとはいえ、電源を入れたのは数えるほどしかない。そんなはずはないと思い、驚いて口に出たのである。

彼はまだ診断の途中だが、このパソコンが潰れているのではなく、プロバイダーとのメールのやり取りの部分が破壊されている可能性がある、と言った。その場合、値段も高くなるし、今までのメール履歴も消えてしまうとのこと。幸いそれには該当しなかったようだが、説明されても、何が何やらと分らないままだった。

結局一時間十五分の作業で二万九百円の出費だった。内訳は、ウインドウズの起動・終了設定が三千三百円。ウインドウズの表示設定が二千二百円。システムのクリーンアップが六千六百元。訪問基本料が五千五百円。環境トラブル診断料金が三千三百円。すべて消費税込みの値段であった。その場で楽天カードで支払った。

いくら機械ものに疎いとはいえ、これまでもパソコンの乗り換えはどうか自分でしてきた。又このノートパソコン自体、記憶に間違いなければ八万円台だったはず。随分とノートは安いと思ったのを憶えている。

この二万九百円という代金は、はたして安いか否か、という思いは今でもあるにはあるが、ただひとつ言えることは、この出費がなければ、このエッセイも存在しなかったことだけは確かである。

今はどうにか最低の責務を全うできた、と胸をなで下ろしているところである。